

農業における課題解決を主としたビジネス支援事業

松本 渉
鶴岡市立図書館

1. 鶴岡市について

鶴岡市は、東北地方で最大となる 1311.53 km²の広大な面積を誇り、人口約 11.5 万人（2025 年末時点）を擁する山形県の沿岸部に位置する自治体である。出羽三山（日本遺産）や加茂水族館といった豊かな自然を活かした観光資源に加え、その広大な土地と自然を活かしたコメをはじめとする多様な地場野菜を含む農作物の生産が、地域の基幹産業として根付いている。また、歴史的な背景として、徳川四天王・酒井忠次の祖先である酒井家が 250 年にわたり治めていた経過があり、鶴岡城（現・鶴岡公園）を中心とした城下町文化が根付いている。これらの自然、多様な地場野菜、文化的背景は、独自の食文化として評価され、日本で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に 2014 年に認定されている。

2. 鶴岡市立図書館の現状

鶴岡市立図書館は、5 つの分館を持つ中央図書館であり、郷土資料館を併設している。山形県の沿岸部である庄内地域全域の郷土資料を 100 年以上収集しており、22 万点以上の史料を所蔵しているのが特徴である。それらの史料は歴史的財産であるとともに、あらゆる記録を残していることから、資料的価値が高いものも多い。

いわゆる従来型の図書館として利用されており、今までビジネス支援は行っていないことから、今後新たに取り組んでいく必要がある。

3. 課題

今回課題として選んだのは、鶴岡市の農業が抱える「農家の安定した収入の確保」という課題である。農林業センサスによると、鶴岡市の基幹的農業従事者数は 2010 年の 6,155 人だったところ、2020 年には 4,640 人と 10 年間で 1,515 人減少している。特に 40～64 歳の働き盛りの世代が大きく減少しており、危機的な状況にある。

一方、山形県新規就農者動向調査によると、2019 年から 2023 年までの 5 年間で 224 人が新規就農し、新規就農者は年々増加傾向になるが、大幅な農業従事者の減少に新規就農者の数が追いついていないのが現状である。

鶴岡市では、2024 年に公表したつるおかアグリプラン（第 3 次鶴岡市農業・農村振興計画）で「農業を支える人材の育成・確保」「農業の生産拡大と所得の向上」「農産物の販路拡大」を掲げており、新規就農者の確保や所得の向上を課題と認識している。

そのため、鶴岡市では、新規就農者育成総合対策（経営開始資金補助）や鶴岡市立農業経営者育成学校「SEADS」など新規就農者向けの支援を独自に行っており、就農しやすい

環境づくりを推進している。

区分	2010	2020	比較	率 (%)
40 歳未満	302	253	▲49	▲16.2%
40～64 歳	2,667	1,439	▲1,228	▲46.1%
65 歳以上	3,186	2,948	▲238	▲7.5%
合計	6,155	4,640	▲1,515	▲24.6

出典：農林業センサス

区分	2019	2020	2021	2022	2023	累計
新規学卒	2	4	4	2	1	13
U ターン	7	34	25	34	33	133
新規参入	11	7	24	18	18	78
合計	20	45	53	54	52	224

出典：山形県新規就農者動向調査

4. 事業の目的と概要

本事業では、情報提供や異業種交流を行うことで「農家の収入の向上」および「新規就農者の増加の促進」を目的としている。

(1) 情報発信 既存の資料及び郷土資料を生かした農産物や農業支援の情報発信

連携先：郷土資料館、農政課

① 農業支援コーナーの設置、資料の充実

図書館のビジネス支援の一環として、農業支援コーナーを設置する。図書館に農業支援コーナーを設置することで、より気軽に農業に関する相談を受ける窓口として機能させる。

また、農業に関する相談だけでなく、全般的なビジネス支援に関する相談も受け付ける。また、今までビジネス支援を行ってきていないことから、制度の周知には十分な力を入れていく必要がある。

なお、鶴岡市は、農業を基幹産業としているものの、図書館にはオンラインデータベースや農業関係図書の所蔵が少ないため、資料、データベースなどを充実していく必要がある。

i 資料の収集 オンラインデータベースの活用

・ルーラル電子図書館の導入

農業支援を主とする予定のため、ルーラル電子図書館の導入を図る。一方

で、使用・活用方法についても課題があるため、館内職員も含め、活用方法の研修などを並行して行っていく。

- ・農業関連資料の収集

農業関係全般の資料の収集、特に地場野菜、在来野菜の資料収集に力を入れていく。

- ii 制度の周知、情報発信方法

- ・オウンドメディアとアードメディアによる周知

図書館におけるビジネス支援は、一般サービスとして十分に周知されているわけではないため、効果的な周知を図っていく必要がある。従来通り、HPやチラシなどによるオウンドメディアによる周知のほか、SNSを活用したアードメディアを活用した周知にも努めていく。

- ② ブックリスト、パスファインダーの作成

既存の資料から、ブックリストを作成するほか、特徴ある地場野菜などを紹介するパスファインダーを設置することで、農産物への関心、シビックプライドの向上を促す。

また、これらの資料作成については、郷土資料館で所蔵する資料なども活用し、当館特有の目線での資料作成に努める。

- ③ 関係パンフレットの設置

前述のとおり、鶴岡市では市を挙げての農業支援に取り組んでいる。相談者に対して、市の農業支援情報を提供できるように関係パンフレットなどで情報支援を行う。

- ④ 農業相談の実施

より専門的な内容について支援を行うため、月1回程度の農業支援員（農政課所属）による農業総合相談窓口を設け、より実践的な相談を行う。

（２）図書館外からの情報提供および連携

連携先：JA、農文協、商工会議所、雑誌スポンサー

図書館による情報提供では解決できない相談、課題などについては、別の視点での解決を図る。

- ① 農業に関するセミナーの開催

ルーラル電子図書館を主宰する農文協で、農業に関するセミナーを実施しているため、開催を予定する。なお、このセミナーに関してはJAとも連携しながら効率的に農家も募集していく。

- ② 情報交換会の開催

既存の視点で解決できないような課題について、企業などとの横の連携によ

って解決または産業連携などが生み出されることを期待する。

（例：農家が抱える廃棄農産物の活用という課題を、雑誌スポンサーの加工や販売の企業に繋ぐ など）

i 農家の抱える課題の募集

単なる課題の募集では、課題の収集は難しいため、①で開催したセミナーのアンケートにより、課題を募集する。

ii 連携する企業の募集

連携する企業についても同様に単なる募集では集まらないことが想定されるため、雑誌スポンサー制度（新規で実施予定）でスポンサーとなっていた企業に参加を打診する。

（３）課題の共有、展示

連携先：連携した事業者

情報交換会で得た課題解決および連携の事例については、「農業支援コーナー」への事例展示やHPなどで公開し、今後の新たな連携につなげていく。

また、展示した課題については、資料として成果をまとめ、最終的に郷土資料として保存・活用する。

5. 施策の実施に向けて

（１）図書館で実施するメリット

図書館で農業支援を行うメリットは、誰でも参加しやすい環境を提供できること（参加に対するハードルが低いこと）である。図書館に訪れる人の中には、家庭菜園を始めた人や、農業に興味がある人がいるかもしれない。そのような潜在的な農家候補者に対してアプローチできる可能性があるのは、図書館ならではのメリットではないだろうか。

また、当館の場合は、郷土資料館が併設されていることにより、郷土資料の保管、活用が容易である点が大きなメリットである。収集した資料や課題などは将来的な郷土資料として保管するほか、郷土資料を活用した新たな在来野菜の発掘など、郷土資料を活かした展開も考えられる。

（２）課題となる点

逆に今回の施策の実施に一番の課題となるのは、農家と当館の信頼性の確保である。当館は、農家との接点もなく、農家側としても当館への信頼はないため、まずは農家との協力関係を築いている農政課やJAなどを通じた支援協力を行っていく。

なお、紫波町図書館では、司書が直接足を運んで取材する、アウトリーチを重要視している。本事業においても参考にしたい。

(3) 将来的な展望

本事業は農業支援を行っている紫波町図書館オガールや小山市立図書館を参考としており、最終的には「図書館マルシェ」や産直での協力などさらなる発展も検討したい。図書館が市民の居場所として使われ、さらに定期的に農産物の販売などができる場所として利用されることで、新たな図書館利用者の獲得および高い満足度を得られる施設となることを目指したい。

(4) 職員の育成

ビジネス支援を行っていくにあたり、職員のスキルアップが必要なため、ビジネス支援を行っている図書館の視察や講習会などを行っていく必要がある。当館では正規職員9名、会計年度任用職員14名という体制であるが、育成に関しては会計年度任用職員にも同様にスキルアップを行い、職員それぞれの資質および図書館サービスの質の向上を目指す。

6. おわりに

第25回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加させていただき、ビジネス支援という概念を知らない状態だったが、概要から先進事例まで講義をいただき非常に参考になった。講義いただいた中で、「まずやってみること」ということが印象に残った。今年度図書館に配属になった私にとっては、今までの行政経験を活かしながら事業を実施できる立場であったが、今まで行うことができていなかった。

また、市の課題を見つけ、解決するために、様々なアンテナをはり、職員が外に出て情報を集めることが重要であるということは印象に残っている。紫波町図書館における現場取材も同様であるが、職員がその現場に行くことで、様々な情報や課題を見つけることができると考える。カウンター業務があり、外に出ることが難しい状況にある図書館職員であるが、職員の業務の整理、効率化を行い、時間を作ったうえで、外への取材や新たな事業に取り組んでいきたい。

【関連資料等】

・第25回ビジネス・ライブラリアン講習会

梶本世志美,『【実践事例】ビジネス支援サービスの実践事例紹介』

常世田良,『公共図書館員の意識改革』

・紫波町図書館

<https://lib.town.shiwa.iwate.jp/>

https://current.ndl.go.jp/wp-content/uploads/mig/report/no15/lis_rr_15.pdf

- ・ 小山市立図書館

<https://library.city.oyama.tochigi.jp/>

- ・ 農林業センサス

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html#y>

- ・ 山形県新規就農者動向調査

<https://www.pref.yamagata.jp/140034/sangyo/nourinsuisangyou/nogyo/shien/shinkishunosha.html>

- ・ 第3次鶴岡市農業・農村振興計画（つるおかアグリプラン）

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/plan/agriplan.html>